

令和5年第4回定例会一般質問通告事項

9 月 6 日	前田孝人議員（潮風おのみち）	質問方式：一括質問方式
	<p>1 中心市街地のまちづくりの観点から土堂小学校を耐震改修して存続させることについて</p> <p>(1) 文科省の公立小中学校の適正規模・適正配置に関する手引書では行政が一方的に進めるものではないと明記されている。児童生徒の保護者、地域住民の十分な理解と協力を得て、地域とともに学校づくりをしていく丁寧な議論が行われることと手引書にある。教育委員会はこの手引書にあるように确实、丁寧に対応してきたと言えるのか</p> <p>(2) 土堂小学校では保護者、地域の多くが反対をしている。ここはもう一度立ち止まって検討、話し合いが必要である。そのためにもまず土堂小を耐震改修して、千光寺の仮校舎にあがっている子ども達を一旦戻し、そのうえで改めて再編統合あるいは単独での存続等について白地で話し合いの場を持ち合意形成を目指すべきだがどうか</p> <p>(3) 平谷市長はこの度の学校再編について地域住民が納得しない場合には仮校舎4年間の期限を先送りしても良いと言っていた。この土堂小学校に関しては保護者、地域住民の了解を得られていない。この平谷市長の発言によると土堂小学校の現状を鑑みたとき先送りできると思うがどうか</p> <p>(4) 土砂災害が予想されるような大雨であれば、特別警報や警報が出て学校は休業や自宅待機となっている。また子どもたちには危ないから千光寺のグラウンドへあがれと言いながら、土堂小学校の近くに住んでおられる多くの市民の方々には、土砂災害警戒区域にあるので危ないから立ち退いたり、どこかへ移転してくださいなどの呼びかけを行っているのか。行っていないのであれば尾道市の政策として矛盾は感じないのか</p> <p>(5) いま土堂小学校を耐震化して存続させて欲しいと願う有志の方々が必死で寄付金を集めたり、シンポジウムを開いたりしている。令和9年度中には完成させるという箱物ありきで進めているこの度の学校再編。土堂小学校を廃校にするということは20年にわたる平谷市政において、公会堂の解体と同じく尾道の歴史に大きな汚点を残すことになるということを強く指摘し、改めてもう一度考えなおすよう強く求めるがどうか</p>	